

150th Anniversary 清央小だより



令和6年度 第10号
2024. 8. 2

教 育 目 標

「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

- ・自ら学び工夫する子ども (考 える)
- ・元気でがんばる子ども (鍛 える)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども (思いやる)

※本たよりの本文は、ユニバーサルデザインのフォントを使用しています。

7月18日(木) 第2回地域協議会が開催されました

去る7月18日(木)に第2回の地域協議会が行われました。学校評価への協力依頼や各部からの報告などがありました。本校の地域協議会は皆さんとても熱心で、学校や地域の子供たちにとって、頼もしく強力な応援隊です。

私からは、学校を含む地域全体で子供を育てるという視点をもって、さらに充実した協議会となるよう、地域の皆様や保護者、そして学校職員による「熟議」を今後行っていきたいというお話をさせていただきました。

また、スクールガードの皆さんから、寒い冬に朝早くから活動しているため、ベンチコートがあるとありがたいという要望を受け、購入について協議しました。その結果、準備していく方向で話がまとまりました。



暑い中、懇談にお越しいただき、ありがとうございました。

夏休みに入っすぐに、各学級で懇談が行われました。保護者の皆様には暑い中、またお忙しい中お越しいただきありがとうございました。併せて、勤務時間内実施へのご協力も感謝申し上げます。担任の先生と、十分なお話はできたでしょうか。

すでに、さくら連絡網でお知らせしましたとおり、今年度から、1学期通知票の学習や生活の様子を伝える「所見」を取りやめました。

これまでは、文字数に制限がある所見欄をもってお子様の様子をお伝えしていたために、十分に意図が伝わらなかったり、やや形骸化してしまったりすることがありました。そのため、懇談の機会があるのであれば、そこで担任から直接お伝えした方が、より具体的で誤解なくお子様の様子をお伝えできるであろうという視点に立った変更です。ご理解いただければ幸いです。

本物と出会う経験を 美術展に行こう！

私の専門教科は、図画工作・美術です。だからというわけでもありませんが、ぜひ夏休みに、美術展に足を運んでいただければと思います。あえて美術「館」でなく美術「展」としたのは、最近屋外を中心に行われる大規模な美術展、例えば、新潟県十日町を中心に現在行われている「[大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ](#)」のようなものも増えているからです。

美術展をお勧めする理由は、

○ 美術館内であれば涼しくて静か、非日常空間との出会い。

○ 夏休みは子供も楽しめる企画展やワークシートが用意されていることが多い。

○ なんといっても「本物」の作品を間近で見られる。

などです。美術館が苦手という方は「作品の見方が分からない」とよくいわれますが、そもそも「見方」などありません。作品と向き合って自由に見ていただき、自分なりの解釈を好き勝手に考えてください。それが本当の「鑑賞」です。

私のお勧めは「[東京国立近代美術館](#)」,「[東京国立博物館](#)」の常設展示です。これらには、皆さんが美術や社会(歴史分野)の教科書で一度は目にしたことのある作品があります。国立博物館の夏の企画展では、8月12日までですが、歴史の教科書でお馴染みの「[国宝 伝源頼朝像](#)」が見られます。この作品の本物はインパクト強いです。その凄さは、画像では伝わりません。また、地元の[宇都宮美術館](#)や[栃木県立美術館](#)にも、ぜひ足を運んでみてください。(ちなみに私は東京都立美術館の「[デ・キリコ展](#)」に行く予定です。時間があれば、伝源頼朝像に20年ぶりに遭いたい。)

(文責:校長)

